

事例5 概略 曲想と音楽の構造などの理解（アナリーゼ的要素）を合奏に生かしていく事例

第5学年 A表現(2器楽ア、イ(ア)(イ)、ウ(イ)(ウ)、鑑賞ア、イ

児童の思考・判断のよりどころとなっている音楽を形づくっている要素【音の重なり、和音の響き】

1 題材名 思いを表現に生かそう（5時間扱い）

2 題材の目標

- (1) 曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、思いや意図に合った音楽表現をするために必要な、音色や響きに気を付けて演奏したりする技能を身に付ける。<知識及び技能>
- (2) 音色、音の重なり、旋律などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の演奏のよさを見だし曲全体を味わって聴くとともに、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつ。<思考力、判断力、表現力等>
- (3) 曲想と音楽の構造との関わりに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽、鑑賞の学習活動に取り組み、楽器の音色や音の重なりに親しむ。<学びに向かう力、人間性等>

3 教材について

- (1)「威風堂々 第1番」(鑑賞) エルガー 作曲
- (2)「威風堂々 第1番」(器楽) エルガー 作曲 長谷部匡俊 編曲

4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>① 知曲想及びその変化と音楽の構造との関わりについて理解している。(鑑賞)</p> <p>② 知曲想と音楽の構造との関わりや、多様な楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わりについて理解している。(器楽)</p> <p>③ 技思いや意図に合った表現をするために必要な、各声部の楽器の音や全体の響きを聴き、音を合わせて演奏する技能を身に付けて演奏している。(器楽)</p>	<p>思①音色、音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の演奏のよさを見だし味わって聴いている。(鑑賞)</p> <p>思②音の重なり、和音の響きを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。(器楽)</p>	<p>態①曲想と音楽の構造との関わりに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽、鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。(器楽・鑑賞)</p>

5 指導と評価の計画（全5時間のち、器楽として扱うのは4、5時の部分）

時	◆ねらい ○学習内容・学習活動 ◎指導上の留意点	知・技	思	態
1 ・ 2 ・ 3	<p>1次◆オーケストラの音楽の構造と曲想の変化を感じ取る。〈鑑賞〉</p> <p>○CD「威風堂々」を聴き、曲全体の響きを感じ取る。</p> <p>○曲の冒頭と最後の部分・イの1度目と2度目の部分の演奏を聴き比べ、曲の特色を捉える。</p> <p>○②～⑤パートを演奏する。</p> <p>○曲想を生かす演奏を考える。</p>	<p>① 知</p> <p>↓</p> <p>② 知</p>	<p>①</p> <p>↓</p>	<p>↓</p>
4 本 時	<p>2次◆音の重なり、和音の響きを感じ取り、どのように歌ったり、演奏したりするかについて、思いや意図をもって演奏する。</p> <p>○聴いている人に「威風堂々」のよさが伝わる表現の工夫を考えて演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時に考えたパートの特徴に合った楽器で練習する。 <p>◎前時の学習を振り返り、楽器の特徴を提示して見通しをもってグループが目指す曲想を確認し、工夫する観点が明確になるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ毎に表現を工夫する。 <p>◎考えた工夫は必ず演奏し、学習者用端末で録画することで、振り返りに活用できるようにする。</p> <p>◎録画する際、パートの音量のバランスを考えた楽器配置をすることで、主旋律が引き立つ強さで演奏できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・録画を振り返り、楽器の配置、分担、楽器の音色等を調整して演奏する。 <p>◎パートの特徴やグループの思いを表現の工夫に生かしている点を価値付け、全体に共有することで、表現のイメージを膨らませるようにする。</p> <p>【児童の工夫例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主旋律の楽器が聴こえにくいから、立つ場所を手前にして、他のパートの音を控えめにした方がいいと思う。 ・楽器の重なりを工夫して、最後に向けて音が多くなると盛り上がった感じに。 ・木琴や鉄琴のマレットを変えると音色が変わって雰囲気が違って聴こえる。 <p style="text-align: right;">※(資料参照)児童の楽譜</p>	<p>↓</p>	<p>②</p> <p>↓</p>	<p>↓</p>
5	<p>○聴いている人によさが伝わるように「クラスの威風堂々」を演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の録画を鑑賞し、どんな演奏にしたいか考える。 <p>◎それぞれのグループの思いが表れた工夫について価値付け、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて、思いや意図をもつことができるようにする。</p> <p>◎教師が児童の考えを集約し、拡大楽譜に書き込むことで、全体のイメージをまとめていくようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現の工夫を確認しながら演奏する。 <p>◎自分たちのよりよい演奏にしたいという思いや曲のよさを伝えたいという意図を、言葉や音楽で伝え合うことと実際に演奏することを繰り返すことで、曲の特徴にふさわしい表現が工夫できるようにする。</p> <p>【児童の工夫例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2回目に入るときの、音の鳴り方や演奏の仕方が、迫ってくる感じで格好よかった。 ・「大迫力な威風堂々」グループの打楽器が盛り上がる場所だけ入るところがよかった。 ・「堂々と落ち着いた威風堂々」のグループの楽器の組み合わせ方の工夫が聴き手に伝わり感動した。 ・「明るく華やかな威風堂々」のグループの主旋律にグロッケンが入っているところが華やかで、私たちのクラスの雰囲気に合っている感じがした。 	<p>↓</p> <p>③ 技</p>	<p>↓</p>	<p>①</p> <p>↓</p>